

通信	支部
同 舟	
No. 37 1月号 1月24日編集発行	
東京都宅地建物 取引業協会 支部 編集兼発行人 高野豊次	

謹賀新年

希望の多い新春を迎え御同慶に堪えません
どうか健康で業務に精進が出来ます様
そして各位の彌栄をお祈りして年頭の
言葉と致します

昭和四十二年元旦

東京都宅地建物取引業協会府中支部

支部長 山村馬太郎

外 役員一同

一月定例理事会開催

と き 一月二十三日午後四時より
と ころ ダイワ不動産
出席者 辻・山村・内山・平井・結城・楨峠・
高野・五島各理事 加藤監査 鈴木氏
要領次の通り

冒頭山村支部長より当月は審議事項なき旨開陳あり
報告事項として

- (イ) 一月十八日日本部主催新年宴会開催につき出席した模様(別項掲載の通り)
- (ロ) 第二回不動産経営セミナーについて
一月二十七・八の両日虎ノ門発明会館に於て
受講料 一万二千元(昼食・テキスト代を含む)
- 主 催 住宅新報社外一、詳細は支部に照会のこと
- (ハ) 従業員労務アンケート提出について
未提出の向は一月末までに担当理事まで提出せられたい。

新春雑感

高野 生

こゝに昭和四十二年の新春を迎え御同慶に堪えませ
ん。
ところで私もいつの間にかよわい六十五という馬令
を重ねるに至りましたが幾つ年をとつても新年といえ
ば矢張り心の改まるものがあり何かしら嬉しいものが
ございます。

さて本年は新春早々総選挙とあつて正直のところ私
達には特別意識する程でもありませんが世の中がさわ
ざ出すとなんとなく落つけない気がするし、いよいよ
選挙の公示が出たとすると又例によつてやかましい毎
日が続くことでしょう。

そこで誰に選挙するかは各人各様の考えでどうこう
云う訳にも参りませぬが大した変りばえがせぬ様な者
を選挙すること又は禁物で国民として今度の審判こそ
真剣に考へべきではないでしょうか!!

唯困つたことは今時分選挙が行われることになる
昭和四十二年度の国家予算が年度内に成立がむつかし
く、少くとも四・五月分は暫定予算となる公算が強い
ので国の会計を当てにして仕事をしている者は勿論一
般経済界もこれが為漸時金融事情が悪くなることは覚

悟せねばならないと思ひます。

次に吾が支部もこの三月には役員改選となります
がこれとても二ケ年の間支部の大事な運営をお任せす
る役員の選出でありますので各位は慎重にその人選を
する必要があると思ひます。

何にしても立派な人柄を選んで今年も来年も更らに
さらい年も組合がますます繁栄出来ませぬ様努力の人、
手腕の人を選びたいもので組合員はお互いトラブルな
どを起さず手に手をとつて常に愉快に業務に精進を続
けたいものであります。

人と店 その一

南武線矢ノ口駅前の十字路近くに光不動産がある。
経営者は栗原常夫君で本年四十四才茨城県土浦近在の
産である。

栗原君は地元旧制の中学校を卒業後召集兵として
フィリピンに転戦しマニラで捕虜生活を送つた。
帰郷後は三菱重工や紡績会社に就職、木毛の工場を
経営したこともある。

昭和三十二年登戸に出て安藤住宅社に入り不動産を
手がけたのが始まりで昭和三十五年には神奈川県に於

て施行の取引主任者試験に合格、その後昭和三十七年十月現在の地に独立開業した。

現在の地盤は主として雨武線沿線なるも時には八王子方面へも遠征することがあり大いに業績をあげつゝある。

同君は真面目で人柄がよく笑顔で物ごとを語る所謂商人風のところが身についており従つて近在の農家や地主連中に信用が厚く客人もそれからそれへと後をつたない。

どちらかといえば地味の方であるが店の経営は至つて順調堅実である。

趣味は全く晩酌を若干たしなむ程度で店舗は夫人と二人きり、家庭には子供一人がある。

今後京王線の延長等があり腕のみせどころと考えられるが大いに発展を期待して止まない。もつて自重自愛をのぞむ。

人と店 その二

府国際映画館通りに中屋商事不動産部がある。店主は望月薫君で本年三十四才山梨県南巨摩の産である。同君は地元中学校を卒業後、伯父が経営する飛田給の建友社に入社、ここで六年の長きに亘り、みっちり

不動産業を勉強した。そして昭和三十八年三月現在の地に独立開業した。

取引主任者試験は昭和三十五年の合格と云い、勤続将に十年選手の一人である。

ところで店は府中にあり乍ら飛田給での勤務が長かつたせいも、いまもつて飛田給、武蔵野台方面への取引が多く又同地での信望も厚い。

同人が言葉少なに語るるところによると、自分は無芸大食で趣味は全く実取得のない人間だと自らけんそんするが時々同店を訪れた中村氏の言を綜合すると薫君は全くの真面目一点ばりて特に奥様孝行が目につくと、洵に結構である。

何はともあれ不動産業の唯一の財産は人間真面目であることが第一の要諦でこれを売物として業績をあげねばならない。

それかあらぬか店は夫人と二人きりの地味そのものであるが来客のたえ間なく経営は至つて順調である。自重自愛以て今後の発展を祈る。

不動産業者の業務の多様化について

高野生

最近の不況に伴い収入の浮動性ある不動産業者は本来の不動産業以外に業務の多様化を図りつゝある。要するにこれは現在の景気の動向からみて当然の難勢かとも思われる。

而して或者は焼鳥屋をやるかと思えば或者は寿司屋を経営し、煙草屋、喫茶店等々その開業業種も多種多様であるが、何れにしても本来の不動産業以外に生計の基盤を求めんとしつゝあるはいなめない事実である。勿論こうした多様な業務を開始したとて本来の不動産業をおろそかにしてはならないが、一方如何なる不況に遭遇しても生計が立つ丈の基盤さへありさへすれば勢い本来の業務にも熱中が出来る、而も所謂、無理をしない信用ある業者となり得るもので業界不評判の昨今洵に喜ばしい現象である。

尤も如何なる多様な業務を併行したところでその儲けは不動産業の比ではなく所謂小さな儲けを積み重ねて気長に商売をして行くところに多様な業務の特長があるので、従つて従来不動産業界にあり勝な金銭の浪費などは夢にも考えられず、これが又不動産業者にとつて、一服の良薬ともなり一石二鳥の成果を挙げることには違いない。

業者間又は業者と客とのトラブルに就いて

高野生

年に幾つか必ず業者間又は業者と客とのトラブルが発生する。

これが解決は何れにしても表面化せぬ間に当事者が懸命に努力すべきが当然で、これを第三者に頼むことはどうかと思うが、思い余つたあげく支部に持込んできた場合も幾度かある。

そうした場合支部としては所謂儲けのカスを持込されても仕方がないし、当然当事者間で解決すべきものなりという方針でこれに関与しなかつたが、最近ではやむにやまれず私設的調停とでもいおうか業者仲間でこれを解決せんとする気運さへある。

尤も私設であろうと公設であろうと調停がつきさへすれば洵に喜ばしい次第であるが同舟の三十九年九月及び十月号をみると既にこれらのトラブルを予想して当時の組合は調停委員会を設置し調停委員を任命しておるのでこの調停委員会が今も尚存続しておるか否かは別問題として何れにしてもこれらのトラブルに対処する組合として何んとか方途を考え善処すべきではなからうか。唯この場合調停委員会の決定が半ば絶体的のものでなければ、そしてトラブルの両者共にこれに服従する気構えがなければ如何によき調停と雖も徒勞に終るかもしれない。

とに角吾々は調停委員会なんぞに調停を依頼する様なことは仕出かさずお互いに手を取りあつて常に仲よく仕事に精進することこそ第一の要諦と心がけねばならない。

一口随想 秘書(三)

文彦は五年間局長の秘書をつとめた。

この間三人の局長につかえたが各人各様の個性があつてこれを十分のみ込まなければ良い秘書としての役目が果せない。

三人のうち始めてつかえた局長は岡山県の豪農の碎で東大独法科出身、二番目は東京出身、徳川の家の末孫だといひ、前者同様東大独法科、三番目は今をときめく若手小説家の父君で矢張り東大独法科出身であつた。

三者とも在学中に高等文官試験並に司法官試験をパスしたそうそうたる官僚であるので事務次官まで榮進はしなくとも少くとも本省の局長や長官には必ずなる方である。

こうした高貴の人であるが自分の秘書に対する心づかいとか思いやりという点になると人々により天と地と程違うものでたとえば、出張に随行する場合、ある

局長は旅費を会計係からもらうと一応汽車賃宿泊料等概算で秘書に渡しそれがなくなる頃又概算で渡してくれるという心のつかい方で旅行が終つて旅費を精算する場合でもいちいち精算内容を検討し秘書が有利になる様に勘定してくれ、所謂かゆいところに手が届く様な気のくばり方である。

そうかと思ふとある局長の如きは出張旅費を袋なり自分のポケットに入れたまゝ汽車に乗ろうと宿に泊らうと一向に金を秘書に渡そうとせず始めのうちには秘書が立替えることも出来るがそうそう立替えるのに金がなく、とうとう出先で借金したことがある。

こうした人に限り旅費の精算書を出すと内容も何も調べずに総額なんぼなりをみて金をくれる、勿論細かいことをいうかもしれないので女中のチップ酒代等すべて二分し秘書が負担しているのにそれに気付かないのは余りにも思いやりがなさすぎる。

こういう局長には次回からは旅費の精算も大まかにし秘書が余計な金を負担せぬ様精算書を出したものである。

人は氏より育ちで育ちによつて心づかいとか思いやりが天と地程違うものである。(以下次号に)

本部主催新年宴会開催

業協会本部主催新年宴会は一月十八日午後二時より新宿ステーションビルに於て開催当支部よりは山村、辻、加藤(武)、結城、高野の各氏が当支部を代表して出席した。

この日傘下支部より参集したる者二八〇名に達し来賓としては協会顧問社会党田中参議院議員を始め、都庁、各種団体代表新聞社等多数列席し昭和四十二年の新春を飾る新年宴会として洵に意義深く且つ盛大であつた。

私の好きな詩

高野生

春千山の花吹雪
秋落葉の雨の音
誘うて世々の夕まぐれ
劫風ともになりやまず
友高樓のおはします
別れの袂重きとき
露荒涼の城跡に
懐古の思しげきとき
聖者静けき窓の戸に
無象の天を思ふとき
大空高く声あけて
今ほと叫ぶ暮の鐘

土井晩翠詩集より

消息

めぐみ不動産開店

府中市是政一ノ二十に於て十二月末開店

店主は久保田恵子氏で暮れの十二月二十六日料亭大に於て盛大なる披露宴があり多数招待をうけた。

たま土地北川雅彦氏は今回同社を辞任し今回新設のめぐみ不動産に就職した。

三愛不動産川内君は依然入院療養中但し店には取引主任者佐久間静枝氏が代務している。

編集後記

○ お正月も過ぎ早や一月も余すところがない。然し景気は依然不況である。

○ 「人と店」の掲載は従来一ヶ月一店宛にしておつたが全組合員を書かんとすると四、五年を要するので少々馬力をかけ月に二店宛掲載したいとも考えている。

○ 同舟新年号は何んとかもりたくさんなものにしたので色々努力したが思わしい記事がなく相変らず貧弱そのもので相済まない。